

令和5（2023）年度

事業報告書

学校法人 松柏学院
倉吉北高等学校

目

次

1 法人の概要	1
(1) 建学の精神	1
(2) 沿革	1
ア 法人設立年月	
イ 学校設置年月	
(3) 設置課程及び定員	1
(4) 各科、各コースの生徒数	1
(5) 役員の概要	1
(6) 評議員の概要	2
(7) 教職員の概要	2
2 事業の概要	2
(1) 生徒募集に関すること	2
(2) 教育に関すること	3
(3) 生徒に関すること	5
ア 進路指導	
イ 部活動	
ウ 生徒異動	
(4) 教職員に関すること	6
(5) 環境整備に関すること	7
(6) 規則・規程の改正等に関すること	8
3 財務の概要	8
(1) 決算の概要	8
(2) 決算関係資料	8
4 その他	
参考資料	

1 法人の概要

(1) 建学の精神 「松柏精神」

中国、宋の時代の学者である謝枋得の七言律詩の冒頭句「雪中の松柏愈青青」から引用したもので、「いかなる困難にも屈せず、強い信念を持って立ち向かうことができる人であれ」という教えを言う。

(2) 沿革

ア 法人設立年月 学校法人松柏学院 昭和36(1961)年3月

イ 学校設置年月 倉吉北高等学校 昭和36(1961)年4月

(3) 設置課程及び定員

課程	学科名	科名	収容定員 (1学年)	募集定員
全日制	普通学科	普通科	170	140
	家庭学科	調理科	30	25
	合計		200	165

* 普通学科普通科 { 特別進学コース
総合コース(進学、情報・ビジネス、福祉、スポーツ)

(4) 各科、各コースの生徒数 (令和5年5月1日現在)

	普 通 科						調 理 科			合 計		
	特進進学コース			総合コース								
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1 年	4	10	14	55	19	74	6	4	10	65	33	98
2 年	7	13	20	47	15	62	4	9	13	58	37	95
3 年	4	8	12	26	26	52	10	2	12	40	36	76
合 計	15	31	46	128	60	188	20	15	35	163	106	269

(5) 役員の概要 (令和5年4月1日現在)

ア 理事

区分	氏名	職名等	任期
理事(2号)	佐藤 義和	理事長	R4.4.1~R7.3.31
理事(1号)	河本 達志	校長	R4.4.1~R7.3.31
理事(2号)	川本 博文	会社役員	R4.4.1~R7.3.31
理事(3号)	藤田 義彦	司法書士	R4.4.1~R7.3.31
理事(3号)	前田 和雄	会社役員	R4.4.1~R7.3.31

イ 監事

区 分	氏 名	職名等	任 期
監事	尾 西 正 人	弁護士	R4. 4. 1～R6. 3. 31
監事	高 木 新 一	学校法人常勤監事	R4. 4. 1～R6. 3. 31

(6) 評議員の概要

(令和5年4月1日現在)

定員数(寄附行為第19条)	現員数	任期
11人以上 19人以内	1号1人、2号3人、3号2人 4号4人、5号3人 計13人	R4. 4. 1～R6. 3. 31

(7) 教職員の概要

(令和5年5月1日現在)

教育職員	非常勤講師	事務部職員	その他の職員	合計
27人	12人	8人	12人	59人

2 事業の概要

(1) 生徒募集に関すること

ア 令和6年度入学者数を130人以上と定める

イ 入試制度の検証

ウ 効果的、効率的な広報活動の改善及び強化を図る

・令和6年度の入学者数

普通科			調理科	合計
特進コース	総合コース	計		
20	84	104	10	114

・入学者の内訳

入学者	左の内訳			備 考 (%)		
	中部地区	地区外	県外	中部地区	地区外	県外
114	64	27	23	56.1	23.7	20.2

生徒募集については、新型コロナウイルスが感染症の5類に移行となり、コロナ禍前の募集活動が可能となった。最重要課題として取り組んだ入学者数130名以上については、114名(97名)と計画には及ばなかったものの、受験生が減少する中、令和2年度以来4年ぶりに100名を超えたことは、学校長をはじめ職員の日頃からの努力の成果である。コース等別では、特進コース35名に対し20名(14名)、総合コース70名に対し84名(73名)、調理科25名に対し10名(10名)であった。

＊()は、前年度

入学者数増の要因は、前年度に対し特に総合コースが11名、また地区外生徒が12名と増えたことによるもので、主に部活動に係る入学者であった。一方で、特進コース・調理科並びに中部地区(特に倉吉市内)が伸びていないため、引き続き対策を講じたい。

オープンスクールは、7月29日に総合コースと調理科を、8月19日は特別進学コースを対象にそれぞれ実施した。新たに在校生による「オープニングステージ」や「ミ

ニ模擬店」を行い、中学生により近い本校生徒の活動を見てもらった。

広報活動については、報道各社に対して情報発信を積極的に行った結果、新聞テレビ等で取り上げられることが増えた。引き続き、情報発信に努めたい。

なお、HPについては思うような更新に繋がらなかったため、次年度の課題としたい。

(2) 教育に関すること

ア 確かな学力を育む教育の実現

(ア) 総合コースにおける習熟度別授業の導入(数学、英語)

(イ) 特別進学コースにおける授業の充実

(大学入学共通テストに対応できる学力保障)

(ウ) 調理科における「調理師免許」取得率の向上

(エ) 体験学習やICTを活用した主体的な学びの構築(各教科・総合的な探究の時間)

(オ) 授業方法の改善(アクティブラーニングの推進)

1) 習熟度別授業は、人材確保の観点から実施できていないが、対策として「スタディサプリENGLISH」を次年度より導入し、個別最適化の英語学習を実施する。

2) 特進の授業は充実してきており、共通テストで一定ラインに届く生徒数が安定してきている。

3) 調理師免許の取得率は、92%(前年度100%)であった。

4) 1年スキー研修、2年インターンシップ・修学旅行等がコロナ禍前に戻り、生徒は様々な体験を通して成長した。

また、総合的な探究の時間については、地域課題の解決に向けて更に充実させたい。

5) 授業方法の改善については、アクティブラーニングを意識している教員が一定数でできている。引き続き、学習方略理論に基づいた授業となるよう、研修会及び公開授業を更に進めていきたい。

また、公開授業を全ての教員に求めたが、24名中8名の実施に留まった。全員が公開授業に取り組めるよう働きかけたい。

6) 英検の受験者数及び合格者数は次のとおりであった。 * () は前年度
受験者数…69名(54名)

合格者数…2級4名(4名)、準2級16名(9名)、3級10名(7名)

今後も受験者及び合格者を増やしていきたい。

イ 生きる力を育む教育の充実

(ア) キャリア教育の充実(職業観、勤労観の育成)

(イ) 特別支援教育の充実

(ウ) 教育相談体制の充実

1) インターンシップ(75社)、進路ガイダンス(1学期22分野、3学期16分野)を計画的に実施し一定の成果を得た。

2) 特別支援教育、教育相談体制については校内連携が進んだが、多種多様なケースがあり対応に苦慮した。次年度は、特別支援教育支援員を配置し、支援が必要な

生徒の授業への対応等改善を図りたい。

ウ 社会に役立つ生徒づくりの実現

多様化する生徒が増加傾向にある中、生徒に寄り添い進路保障を実現する。

(ア) 自ら希望する進学先及び就職先への進路保障の実現

(イ) 就職先の新規開拓と強化

(ウ) 転退学者の減少と対策

(エ) 教育相談の強化と連携

- 1) 進学及び就職先については100%決定。内訳は、進学65.3%、就職34.7%（内、県内就職は61.5%）であった。
- 2) 教育相談は、有資格者（臨床心理士）2名を配置し、原則週1日で生徒・保護者等の相談を実施した。相談者が限定される傾向にある一方で、相談に応じて欲しい生徒の取り扱いが今後の課題である。
- 3) 転退学者については、16名（前年度17名）で前年度とほぼ同様であった。例年、転学者が退学者を上回っていたが、今年度は退学者が多かった。要因としては、学習に対する意欲の無さと、対人関係の修復力が乏しいことと捉えている。日頃からの情報共有や授業改善に努めたい。

エ 地域に根差した学校づくりの推進

積極的に地域と繋がり本校への理解と地域の理解を深める中で、生きる力を育成する。

(ア) 探究学習（総合的な探求の時間）等を活用して地域や企業等と関わる機会を増やす

(イ) 調理科による「高校生レストラン」の開催や調理クラブによる地域イベントへの積極的な参加

(ウ) インターアクトクラブを中心とした生徒主体のボランティア活動の推進

(エ) HP、SNSを活用した効果的、効率的な情報発信

- 1) 探究学習等で次の活動をとおして地域等と関わることもできた。（抜粋）
 - ・情報・ビジネス類型
プレゼン資料づくりの一環として、地域に出掛け地域を知る学習を行い、発表した
 - ・総合的な探求の時間
地域に出掛け、働く目的や喜びをインタビューし、纏めたものを発表した
 - ・調理科
窯元を見学することで調理実習等の授業に生かした
- 2) 新型コロナウイルスが感染症の5類となり、コロナ禍前の活動に戻る中、次の活動を行った。（抜粋）
 - ・調理科及び調理クラブ…うまいもん甲子園中四国大会ベスト5、料理検定2級取得、県立美術館建設上棟記念及び鳥取こどもの国等イベント出店、高校生レストラン開催 外
 - ・インターアクトクラブ…地区大会活動発表、親子で学ぶ防災教室等開催、指導

者講習会参加、ポリオ募金（以上、ロータリークラブ関連）、ボランティアフェスティバルバルーン研修参加、能登半島地震義援金募金 外

（３）生徒に関すること

学校生活は、５月に新型コロナウイルスが感染法上の５類に移行となったことから、学校行事・部活動・各種大会等、ほぼコロナ禍前の日常に戻った。生徒達は、制限の無い日常に感謝しながら、進学・就職・部活動と目標に向けて日々努力を重ね成果を上げた。

また、卒業式では３年ぶりに来賓並びに在校生も出席し、コロナ禍前と同様な形で式を行った。

引き続き、感染対策に留意しながら安心安全な学校生活が送れるよう取り組んで行きたい。

ア 進路指導

（令和６年３月３１日現在）

卒業 生徒数	左の内訳										
	進 学						就 職				
	国公立 大学	私立 大学	短大	専門 学校	その他	計	県内	県外	公務員	その他	計
７５	４	１６	９	１７	３	４９	１６	５	２	３	２６

卒業生７５名の進路状況は、進学６５．３％（７７．７％）、就職３４．７％（２２．３％）で前年度に対し進学率が低くなった。要因は、特進コースの卒業生が前年度に対し１９名減であったことが影響したと考えている。 ＊（ ）は、前年度

進学先は、国公立大学に４名（鳥取大、鳥取環境大、山口大、広島市立大）、私立大学に１６名（流通経済大、大阪医科薬科大、鳥取看護大等）がそれぞれ進学した。就職は県内１６名、県外５名であった。

今後も、進路保障の実現に向けて生徒に寄り添った指導を行いたい。

イ 部活動

クラブ名	成 績
柔道（男女）	全国高校総体及び全国高校柔道選手権（団体・個人）出場 男子 〃 〃 （個人）出場 女子
陸上	全国高校総体（棒高跳び・七種混成）出場
卓球	県高校総体女子団体３位・個人ベスト８、男子及び女子ダブルスベスト８
バスケ女子	県高校総体及びウインターカップ県予選ベスト４、県高校新人大会準優勝
バスケ男子	県高校総体ベスト４、ウインターカップ県予選ベスト８
硬式野球	秋季県大会ベスト１６
吹奏楽	全日本吹奏楽コンクール県大会金賞（小編成部門） 全日本アンサンブルコンテスト県大会銀賞（サクソフォン３重奏・打楽器３重奏）
調理クラブ	全国こどものための愛情弁当コンテスト農林水産大臣賞 中国地区牛乳・乳製品コンクール中国大会優良賞

部活動もほぼコロナ禍前の活動に戻り、生徒達は練習の成果を上表のとおり各種大会において好成績を収めた。その他、全国高校総体ボクシングの部に出場した生徒も

いた。また、サッカー部が「鳥取わかとりリーグ3部EAST」で優勝し、来年度2部リーグ昇格を果たす等、各部共に次年度以降の更なる活躍に期待したい。

ウ 生徒異動

(令和6年3月31日現在)

学年 / 科・コース	普 通 科						調 理 科			合 計		
	特進進学コース			総合コース								
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1 年				1	2	3				1	2	3
				3		3		1	1	3	1	4
2 年				4		4	1	2	3	5	2	7
				1		1				1		1
3 年							1		1	1		1
合 計	0	0	0	5	2	7	2	2	4	7	4	11
	0	0	0	4	0	4	0	1	1	4	1	5

(注) 上段…退学、下段…転学

転退学者が16名（転学5名・退学11名）と、前年度17名（転学10名・退学7名）に対し1名（転学△5名・退学4名）の減と、ほぼ横ばいであった。ただ、例年転学者が多い傾向にある中、今年度は退学者が多かった。主な要因は、怠学及び不登校の生徒が多かったことと捉えている。

入学直後の三者懇談等を通して本人・保護者・学校、併せてスクールカウンセラーとの連携を強化し、学校との繋がり（学習、部活動、行事等）を大切にしたい。

(4) 教職員に関すること

ア 「教育の質」向上を目指す学校運営

(ア) 新学習指導要領に沿った、円滑な授業及び評価の実施

(イ) 研修等による教員の資質・能力の向上

(ウ) 校内研究授業の実施

(エ) 中高連携による接続の推進（近隣中学校との連携：教科・部活動）

- 1) 観点別評価は進みつつあるが、各教科の運用について共通認識をしながら適切な評価に努めたい。
- 2) ICTを活用した授業については、未だ教科・教員による活用頻度に差がある。教員の更なる指導力向上と、生徒の利用方法の確認及び指導の徹底が必要である。
- 3) 公開授業については多数の教員が行ったが、全教員が実施するには至らなかった。また、研究授業は未実施であった。
- 4) 一部教科は中学との教科研究会に参加し研鑽に努めた。また、中学校での学習・生活指導に関わる新たな取り組みの研修会に参加し、生徒の現状把握を行った。部活動では、サッカー、柔道、卓球、バスケットボール、吹奏楽等が中学生との連携に努めた。

イ 働き方改革の推進

タイムカードによる勤怠管理を「見える化」し、適正な勤務時間の管理を徹底する。

(ア) 時間外勤務の適正な運用の実施

(イ) ワーク・ライフバランスの実現

- 1) 新型コロナウイルスが感染法上の5類に引き下げられたことから、部活動の指導時間が増えた一方で、ワーク・ライフバランスの観点も考慮しながら適正管理に努めたい。併せて、職員の意識改革を図りたい。
- 2) タイムカードによる勤怠管理については、次年度導入に目途を付けた。

ウ 教員の人材確保

全国的に「教員不足」が深刻化する中、確保に向けた対策を強化する。一方で「人材の質」の維持も重要である。

(ア) 専門業者への登録

(イ) 私学間の連携

(ウ) 卒業生のリスト化

(エ) 情報収集の強化

(オ) 学院独自の奨学金の導入検討

- 1) 専門業者への登録を引き続き行った結果、採用試験まで進んだが採用には至らなかった。引き続き登録を行いたい。
- 2) 私学間の連携は進んでいないが、できることから引き続き取り組みたい。
- 3) 卒業生のリスト化については、特定の教科に限られていることから、厳しい状況ではあるが、引き続き注視していきたい。
- 4) あらゆるチャンネルをととして情報収集の強化を図りたい。

エ 組織改革の実行と人材育成

校務分掌及び業務分担を見直し、併せて適正配置を行うことで、組織の活性化と教職員の資質向上を目指す。

(ア) 校長面談の実施

(イ) 校務分掌等の見直しと適正配置

- 1) 校長面談は年度当初に自己目標を、年度末にこれに対する進捗状況を確認したことで、次年度の目標が明確になった。目標を明確にしたことで共通理解ができ有意義であった。今後も継続したい。
- 2) 分掌等の見直しについては、思うように見直しが進まなかった。(一部実施)
限られた職員に業務が集中する傾向にあり、今後は育成を含めて資質向上に努めたい。

(5) 環境整備に関すること

(ア) 松柏寮の整備(浴槽の改装外等)

(イ) 施設設備整備計画(短期・中期・長期)の策定

施設設備整備計画を作成したことから、今後は本計画を基に進めていきたい。

松柏寮の整備については、財政状況を考慮して見送ったが、早期の整備に努めたい。
なお、主な整備は次のとおり。

整備状況

施設関係…第一・第二校舎1階網戸新設工事455千円（補助事業）

雨天練習場マウンド整備工事693千円（一部寄附）

設備関係…松柏寮二段ベッド6台更新376千円、高圧コンデンサ取替272千円、プロジェクター及びスクリーン417千円（卒業記念品充当）

（6）規則・規程の改正等に関すること

（ア）必要に応じて規則・規程を整備

（イ）法改正に伴うもの及び改正の必要が生じた場合は速やかな対応

概ね、必要に応じて規則・規程の整備を行うことができた。

次年度に向けて、私学法改正（令和7年4月1日）を柱に取り組みたい。

3 財務の概要

（1）決算の概要

生徒数に応じた適正な予算執行を基本とし、緊急的及び政策的な執行については、内容を精査した上で執行する。

1）生徒数は表のとおり、前年度に対して7.9%（23人）と大幅な減、転退学者も前年度と同様2桁あり、全体の生徒数は更に減となった。寮生に大きな増減は無かった。また、前年度から引き続き諸物価等の高騰も重なったことから、非常に厳しい運営を強いられた。

引き続き、必要性・緊急性等を加味した執行を行い、併せて節減等も行うこととしたい。また、生徒数の異動状況等も考慮した適正な執行に努めたい。

2）平成29年4月以来6年ぶりに給料表を改正したことに伴い、人件費が増えた。

3）創立60周年記念事業を精算し、収入9,732千円、支出7,765千円（差引1,967千円）を計上した。

4）前年度に引き続き、本校卒業生の山根氏から生徒数増の一助として、新入生に対する奨学金600千円（200千円×3名）を受納した。また、次年度創部の女子硬式野球部員に対し、激励金100千円（50千円×2名）を受納した。他に、雨天練習場マウンド整備に伴い、野球部OB会から300千円を受納した。

（2）決算関係資料（別紙のとおり）

ア 資金収支計算書

イ 事業活動収支計算書

ウ 貸借対照表

エ 基本金明細表

オ 借入金明細表

カ 固定資産明細表

キ 財産目録